

どうすれば 安全安心

乳がんを発見するには

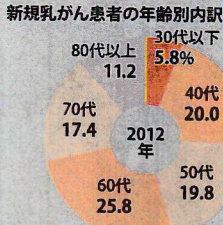
乳がんで闘病していたフリーアナウンサー、小林麻央さん(34)が6月に亡くなり、30代など比較的若い世代の乳がんに改めて関心が向いている。早期発見されれば治りやすく、若い人には少ない乳がんだが、基本的な知識は押さえておきたい。日本乳癌学会は昨年、患者向け診療ガイドラインを改定し公表した。その委員長を務めた四国がんセンターがん診断・治療開発部の大住省三部長の話を中心にまとめた。

乳がんは年々増えており、国立がん研究センターの推計によると昨年は約9万人の女性が新たに診断され、約1万4000人が死亡したとみられる。

多く見つかるのは40代後半から60代にかけて。30代から増え始めるが、若年層の患者は少なく、2012年のデータでは、新規患者に占める30代以下の割合は5.8%だ。

乳がんの5年生存率は、しこりが2センチ以下、転移なしの早期に見つかれば99%。だが進行に伴い徐々に低下し、他の臓器に転移した場合だと生存率は30%台になる。

国は、乳がん死を減らすために40歳以上の女性を対象に2年に1回のマンモグラフィー検査を推奨している。マンモはしこりになる前の「石灰化」という段階でがんを検出するのが得意で、40歳以上では検診によるがん死亡率の低減効果が確認されている。だが、乳腺組織もがも白く写るため、30代以下をはじめ乳腺組織が濃い人ではがんを見つけにくいなどの弱



※国立がん研究センターによる

点がある。

弱点克服のため、マンモに超音波検査を併用する方法の効果を調べる大規模研究が40代を対象に行われた。がんの発見率は上がったが、がんではない変化を「がんの疑い」として拾いやすいため、現時点では超音波の乳がん検診を担える人材が大幅に不足しているなどの課題が明らかになり、集団を対象とした検診での採用は時期尚早とされた。「30代以下については、全員に勧められる乳がんの画像検診法は確立されていないのが実情」と大住さんは話す。

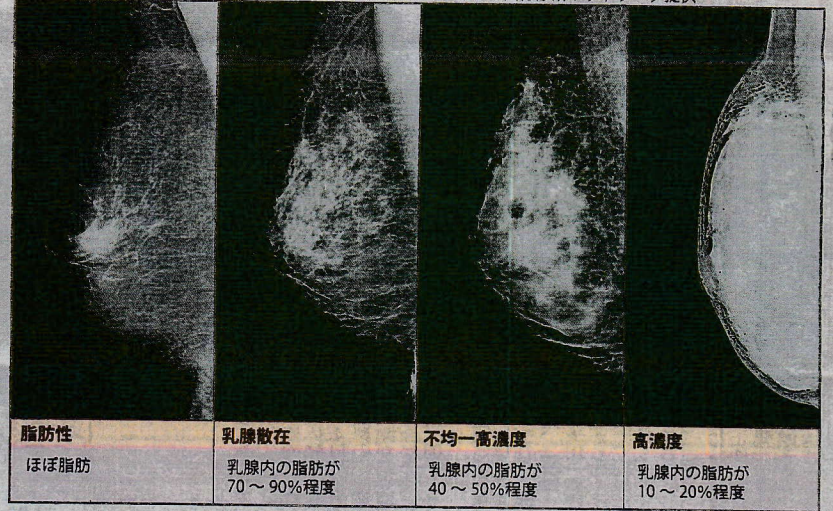
では、自分の乳房を鏡に映して見た手で触ったりして、普段の状態を把握しておくセルフチェックの有効性はどうか。

「死亡率を下げる明確な効果は確認されていないが、普段の乳房の状態を知っていれば、異常にも気づきやすくと考えられる(大住さん)として、セルフチェックの意義を認める医師は多い。

継続して見ていると、排卵から月経終了までの時期は乳房が張った感じになるなど、自然な変化があることも分かる。普段の変化と違う自覚症状があれば受診を。乳がんに詳しいのは乳腺科、乳腺外科などの医師だ。「15分という時間で相談できる医師がいる状態にしておくことはとても有効」と大住さんは指摘する。

セルフチェックに意義

マンモグラフィーで撮影した乳腺組織 ※NPO法人 乳がん画像診断ネットワーク提供



数が少ない30代以下の乳がんだが、遺伝的にリスクが高い人は若年で発症する場合もある。最もよく知られているのがBRCA1/2と呼ばれるがん抑制遺伝子の変異を親から受け継ぐケースだ。

BRCA1/2については遺伝子検査が可能で、発症前に分かっていた場合は、早くから検診を始めるなど対策に生かすことができるが、検査結果は血縁者にも関わるため、大住さんは「遺伝カウンセリングの態勢を整った施設への相談を」と助言している。

異常見つけにくい「高濃度乳房」

乳がん検診への関心が高まるにつれ、日本人女性に多く、異常を見つけにくい「高濃度乳房」が注目されている。厚生労働省は「高濃度乳房」と判定された場合、受診者に知らせる体制を整備する方針だ。通知方法を定めた指針をまとめ、自治体が行

う乳がん検診で活用してもらおう。「高濃度乳房」はどういうものか。NPO法人乳がん画像診断ネットワークの理事長で相良病院付属プレストセンター放射線科部長の戸崎光宏さんが解説する。「乳房内の乳腺組織の密度が高い順に、高濃度、

不均一高濃度、乳腺散在、脂肪性の4段階に分かれる。そのうち、不均一高濃度と高濃度を特に『高濃度乳房』と呼んでいる。実感として30、40代の日本人女性では7割以上が当てはまると思う。ただ、高濃度乳房は病気ではなく、体質によるものだ。特徴はマンモグラフィーでがんを見つけにくいこと。「例えば『高濃度乳房のため、がんが見えなかった』という状態でも、診断結果は『異常なし』になってしまう」と

戸崎さんは話す。厚労省によると、自治体の乳がん検診で本人の乳房の状態を通知しているのは全体の13.5%にとどまる。戸崎さんは「高濃度乳房の人は、超音波検査も併用した方がいい。まずは、乳房の状態を把握することが大切です。自治体検診でも医師が口頭で結果を説明してくれる場合や、自費で検診を受けた際は自分の乳房の状態を聞いてほしい」と話している。【田村彰子】

第3回

応募要項

- 応募資格 日本国内の専門学校・短期大学・大学・大学院に在籍する学生であること。個人・グループを問いません。複数点の応募も可能です。*高等専門学校(4・5年生)も含む。
- 設計条件 テーマに沿った、延床20坪(約66㎡)以上の住宅を設計してください。*規定以外の条件に関しては応募者が自由に設定してください。
- 構造 木造
- 提出物 ●エントリーシート 1枚



学 住宅デザイン